

夏秋咲き小ギクの品種特性

藤原 一 道 ・ 阿 部 潤

(岩手県園芸試験場)

Varietal Characteristics of Summer and Fall Flowering Small Type Chrysanthemum

Kazumichi FUJIWARA and Jun ABE

(Iwate Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

近年岩手県内では、リンドウに次ぐ花き品目の一つとして小ギクの栽培が増加している。産地では長期にわたって出荷するための作期の拡大が望まれているが、現在は開花時期の異なる品種を組み合わせる栽培することにより対応している。このため、小ギク品種個々の特性を知り、優良品種を選定する必要がある。そこで、昭和60年から4年間にわたって夏秋咲き品種の特性調査試験を行ったので、その結果を報告する。

2 試験方法

- (1) 試験場所 園試圃場 (標高90m, 洪積性火山灰土壌)
- (2) 定植時期 7・8月咲き品種 4月上旬～5月中旬
冬至芽苗使用
(63年度は前年9月に株分け定植)
9・10月咲き品種 5月下旬～6月上旬
さし芽苗使用
- (3) 栽植距離 (60・61年) 畦幅120cm 株間15cm
条間30cm 2条植
(62・63年) 畦幅100cm 株間10cm
1条植
- (4) 施肥量 窒素, 磷酸, 加里 各15kg/10a
- (5) 供試品種 白系 14品種, 黄系 13品種
赤系 13品種, 桃系 12品種 計52品種
- (6) 試験規模 1品種 20株

3 試験結果及び考察

(1) 開花期

開花期は年次変動が大きく、品種によりその程度が異なっていた。10月咲き品種では、変動が少なく比較的安定したものが多かったが、8・9月咲き品種では変動が大きいものが多数あった。特に、本来9月咲きである「由美」は、60年に比べて62年は21日開花期が早まった。昭和62年は、5月、6月が高温で経過し、この年に開花期の前進が見られた品種が多いことから、温度条件の影響で変動していると考えられた。また、秋植えによる開花期の前進も見られた。開花期の変動は実際栽培上大きな問題となるので、今後その対応策の検討が必要である。

(2) 切花長

草丈の伸びはおおむね良好であったが、7・8月咲き品種の「千波」、「好楽」など一部にやや不足が見られ、特に「入舟」は草丈が伸びにくい品種と思われた。これらの品種は定植時期、灌水法など栽培面の改善により、ある程度草丈を伸ばすことが可能であるが、逆に10月咲き品種などで1mを越えるような「桃秋」、「朝路」等については、さし芽及び定植時期を遅らせるなどの対策が必要である。

(3) 草姿

草姿は、品種の特性としての分枝の数、及びその長さによって決まる部分が多い。一般的には全体がほうき状になり、頭部の高さが揃うのが良い草姿とされている。「由美」、「千代」、「もみじ狩」などは草姿が整い優れた品種であった。草姿が不良とされる場合、分枝の長さが揃わなかったり、分枝の発生する位置が悪くて乱れるものが多かった。「理絵」は分枝数が多く、下位の分枝が長くなったため、全体の草姿が乱れた。分枝が少ない場合でも、「夢香」などは個々の分枝が長大となり、全体にボリュームが過大と思われた。

(4) 病害虫

本試験では、耐病性を確認するために圃場での白さび病防除を行わなかった。白さび病の発生は品種によって差があり、初期から激発する「ひばり」、「寿美」、発生が見られない「千代」、「由美」、「秋水」など様々であった。「夕風」は、草姿などの特性が優れるものの、白さび病にやや弱いという欠点があった。害虫では、アブラムシ、ハダニ、スリップスの発生が見られた。また、「花の里」ではハガレセンチュウの被害があった。

(5) 生理障害など

花卉の退色は赤・桃色系品種で多く認められた。程度の差はあったが、「美紗」、「美保」などは退色が早く、商品性の低下につながると思われた。退色の発生は高温年に多く見られた。白・黄色系品種では、花卉の退色は問題とならなかったが、7・10月咲き品種の一部で低温の影響と思われる花卉の着色が見られた。10月中～下旬咲き品種では霜害の発生が認められたので、この対策が必要である。

4 ま と め

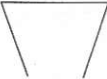
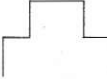
夏秋咲き小ギク品種 (白色14, 黄色13, 赤色13, 桃色12, 計52品種) について特性調査を行い、有望と考えられる品

表1 主要品種の特性

	品 種 名 ¹⁾	花色	平均採花始 (月日±偏差)	切 花 長 ²⁾ (cm)	切 花 重 ²⁾ (g)	分 枝 数 ²⁾ (本)	草 姿 ³⁾	茎強さ	白さび病 耐 病 性
7 月 咲	さ ぎ り○	白	7.14 ± 1.4	95.2	80.8	24.2	2	弱	強
	深 水	赤	15 ± 6.7	74.6	79.8	15.1	3	強	強
	千 波○	黄	21 ± 0.7	72.0	62.7	12.8	1	強	強
8 月 咲	さ な え○	桃	7.28 ± 3.5	93.3	43.3	14.2	1	強	強
	小 夏○	白	28 ± 3.5	82.0	102.0	10.7	2	中	強
	千 代	桃	29 ± 6.1	88.9	101.6	15.3	1	強	強
	入 舟○	黄	29 ± 2.1	54.8	44.4	13.5	3	強	強
	ふ り 袖	桃	8. 3 ± 2.8	93.7	123.9	8.3	1	強	強
	由 美	白	15 ± 11.8	84.9	127.9	10.2	1	中	強
	秋 水	黄	18 ± 9.1	110.3	151.9	8.4	1	強	強
	もみじ狩	赤	9 ± 6.3	102.1	117.2	7.2	1	強	強
	好 楽○	黄	23 ± 7.1	74.7	73.8	11.0	3	中	強
9 月 咲	美 紗	赤	8.31 ± 8.5	76.8	60.1	10.1	1	強	強
	ゆ かり○	桃	9. 8 ± 11.3	76.6	59.1	9.9	1	強	強
	か も め	桃	12 ± 2.8	101.2	72.9	13.0	1	中	強
	か ぐ ら	白	24 ± 5.3	91.0	87.3	10.4	1	中	強
	源 氏○	白	28 ± 3.5	105.8	110.8	9.6	3	強	中
	夕 風	黄	29 ± 7.1	90.6	84.8	8.5	1	強	弱
	染 衣	赤	21 ± 8.5	96.5	128.7	9.0	1	中	強
	も も 代	桃	22 ± 5.6	91.8	75.8	7.4	1	中	中
10 月 咲	桃 秋	赤	10. 3 ± 2.4	120.4	112.1	10.7	1	強	中
	知 佳	桃	3 ± 3.3	100.4	66.2	9.5	1	中	強
	朝 路	白	21 ± 1.6	129.0	130.3	5.8	1	中	中
	理 絵	赤	24 ± 2.9	116.8	128.2	23.7	2	強	強
	夢 香	桃	17 ± 4.8	109.3	137.6	7.5	1	強	強

注. 1) ○印の品種は2年間(62～63年), それ以外は4年間(60～63年)調査を行った。

2) 切花長, 切花重, 分枝数は62, 63年の平均値。ただし入舟は62年の値。

3) 草姿 1;  2;  3; 

4) 表以外の供試品種

白系: 早雲, 白水, 青葉, ひばり, 白浜, やまがら, 白秋, さわやか

黄系: 初穂, 寿美, 登紀, 金竜, 千登世, 新志津, つばね, 美喜

赤系: 紅竜, 花ごよみ, 花笠, 美保, 花の里, 紅娘, 蒔絵

桃系: 真知, 好美, 真弓, ほのか

種を選定してその特性表を作成した(表1)。

(1) 開花期は, 特に8・9月咲き品種で年次変動を示すものが多く, 高温年における開花期の前進が認められた。

(2) 草丈はおおむね良好であったが, 7・8月咲き品種の一部で若干不足し, 逆に10月咲き品種では長すぎるものがあった。草丈は栽培面で改善可能と思われる。

(3) 草姿は品種により多様であったが, 良いとされる型の品種を主に選定した。

(4) 白さび病について無防除で検討した結果, 試験年次

を通じて発生しない品種が認められた。

(5) 赤・桃色系品種で花卉の退色が見られ, これは高温年に著しかった。

現在流通している小ギクの品種は非常に多く, またその移り変わりも早い。今回の試験ではその中の一部の品種について調査を行ったが, 優れた品種を選定するためには, 今後更に多くの品種の調査を行い, 基礎的データを集める必要がある。